

支部活動功労者表彰〔受賞者〕

(公社)自動車技術会関東支部

年度	受賞者	受賞の理由
2015	保田 正義	2010年より関東支部の理事(見学会担当)に就任し、2015年から見学会の主担当を務め、関東支部の見学会運営の主導的な役割を担ってきた。さらに、関東支部の活動方針の重点項目である「技術者交流の強化」において、新規事業ワーキングチームの初の試みである「水素関連技術研究施設と九州地区自動車メーカー見学&技術者交流会」の開催に当たり、現地の見学先やメーカーの担当者とは細部まで調整し、また現地確認を行うことにより成功に導いた。
	伊藤 利彦	関東支部報理事として支部報編集活動に4年間携わり、2013年～2015年は主担当理事として、連載記事の執筆担当輪番制の導入やメンバーの業務負荷平準化による運営効率化など、当支部報のとりまとめ役として活躍した。さらに新規事業WGの担当として、日産自動車殿による技術者交流会の開催に尽力した。
	小宮 孝司	2010年から現在に至るまで社会活動担当理事として、各地域での小学生向けの「くるま未来体験教室」に積極的に参加されるとともに、重要拠点とした新潟で「くるま未来体験教室」や「一般向けの公開講座」を継続的に企画・開催した。新潟工業短大が自技会活動の重要拠点として確立するのに多大な貢献をされた。
	玉井 尚利	2007年に関東支部理事に就任し、遠方であるにも係らず9年の長きにわたり学生活動を積極的に担ってきた。特に学術研究講演会では企画運営に尽力し、座長を務めるとともに表彰選考の取りまとめ役としての実績も大である。他方、所属企業の地域特性を如何なく発揮し、長野地域での理事会や見学会開催の受入れや、社会活動の一環としての長野県における拠点作りにも貢献した。
	鈴木 隆	全日本学生フォーミュラ大会で上位常連校として長年先陣を切って大会を盛会にしていた。特に、大会前の関東支部主催の試走会並びに技術交流会では、培ってきた技術や製作法を関東支部傘下の大学へ指導するなど、関東支部全体のレベルアップに多大な貢献をされている。また、関東支部の試走会WGのメンバーとして、様々な提案や試走会での活動などでも大きな貢献をされた。
	防衛装備庁 陸上装備研究所 防衛装備庁 艦艇装備研究所 防衛装備庁 航空装備研究所	2012年度より傘下の各研究所(陸上装備研究所、艦艇装備研究所、航空装備研究所)を持ち回りつつ毎年継続して講演会を企画・開催して頂くとともに、会場の提供や講演内容に関連する施設や装備等の見学をも実施して頂いている。毎回抽選になるほどの多くの応募もあり、普段あまり見聞きする機会の少ない貴重な講演や見学は自動車技術者にとっても非常に有用であり、当支部の講演・講習会活動に多大な貢献をされた。
	(感謝状:学生活動) 東京都市大学	近年学術研究講演会は、論文発表件数の増加のみならず、展示会の充実、英語セッションの設置、大学研究施設見学、国際交流事業との連動など多岐にわたり充実が図られている。この中において、東京都市大学は、2015年度学術研究講演会の会場を格別な配慮のもと快く提供下さった。また、開催準備及び運営にも多大な貢献もあり、学術研究講演会を成功に導いた。ご協力戴いた多くの東京都市大学の学生スタッフ及び同大学の関係者の周到な対応が、スムーズな運営に貢献した。
	(感謝状:会員増強) 富士重工業(株) スバル第一技術本部 技術管理部	会員増強活動で、継続的な新規入会のしきみ作りを行い、昨年に引き続き年度初めの1362名から、1583名(3/1時点)まで、221名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
	(感謝状:会員増強) 富士テクノサービス(株)	会員増強活動で、年度初めの45名から、129名(3/1時点)まで、84名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
2014	新井 康久	2013年度の自動車技術会関東支部の支部長を務め、その間、会員ニーズを捉え、関東支部方針を立案、重点施策を定め展開を図ってきた。特に次世代を担う技術者交流を主眼とした、研究施設見学会等の新規事業を創出し、会員サービスの向上、支部活動の活性化に努めた。
	倉橋 秀範	2009年より社会活動担当理事として小学生向けの「くるま未来体験教室」での燃料電池自動車の試乗会や高校生向けの「新ものづくり教室」などの活動を積極的に推進された。特に宇都宮地域では、地区コミュニティや宇都宮大学と連携し、「くるま未来体験教室」や大学オープンディの自動車技術の講演を実行し、栃木県を継続的な社会活動の重要拠点とすることに多大な貢献をされた。
	馬場 雅之	2010年から5年間学生活動担当理事を務め、2013年からは副担当として運営に主導的な役割を担っている。2014年には、学術研究講演会実行委員会委員長に就任し、過去最大規模の同講演会運営に大いに貢献した。学自研支援活動では学自研企画イベントのサポート、国際交流では、特に台湾との国際交流スタート時に道筋をつける、など多方面でご尽力戴いた。
	伊藤 秀明	学生時代より学自研活動に参画。学生自らが考え、会を自主運営するスタンスを定着させた。卒業後は、2006年より支部学生活動支援委員に就任。学生により近い目線で活動をサポートし、学自研OP会立ち上げでは、設立発起メンバーとしてOP同士の連携や、OPとして学自研活性化に情熱を注ぎ、現在の学自研やOP会の礎を固める事に尽力された。
	阿桑 健太郎	2005年から2014年まで、大成社にて支部報「高翔」の編集長担当時に、支部報のカラー化(コストアップ無し)検討と実施、インタビューや座談会記事掲載用写真撮影、縦書きから横書き変更時の問題点検討等、記事の校正・編集・印刷以外の部分で独自に活動し、10年間継続的に支部報の編集・発刊に多大な貢献をされた。
	千葉大学工学部	2014年度学術研究講演会に際し、会場提供と開催準備及び運営に多大な貢献があり、学術研究講演会を成功に導いた。ご協力戴いた教職員と約20名の同大学学生スタッフと共にスムーズな運営に寄与された。
	トヨタ自動車(株) 東富士研究所 管理部 開発支援課	関東支部の試走会を始めた当初から毎回、溶接担当で参加し、溶接の講習会や学生のものづくりに関して熱心に教授し、数多くの学生に有用な知識と経験を与え、その後のクルマの完成度向上へ大いに貢献している。また、同時にものづくりのおもしろさや楽しさも併せて教え、各大学の学生が技術者として巣立っていく時の良き協力者として尽力されている。
	富士重工業(株) スバル技術本部 技術管理部	会員増強活動で、年度初めの944名から、1362名(4/1時点)まで、418名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
	2013	幸村 秀生

	黒澤 幸弘	関東支部報理事として、支部報編集に6年間携わり、2012年、2013年は主担当理事として、支部報のとりまとめ役として活躍された。魅力ある紙面作りに尽力すると共に、支部活動の広報誌としての役割を持たせる事に注力された。
	立川 和彦	2008年度より社会活動担当理事として、小学生向けの「くるま未来体験教室」や新潟地区での講演会・公開講座、キッズエンジニアなど積極的に活動された。特に群馬地区での活動として、中高生向け新規プログラムとして群馬県高校生電気自動車大会への協賛に尽力され、関東支部社会活動の発展・拡大に貢献された。
	岡部 顕史	2008年度から学生活動担当理事として、学生活動の発展に多大な貢献を果たした。また、支部学自研学生委員会にも積極的に出席し、将来を担う若手技術者の育成にも取り組んだ。学術研究講演会では、応募論文の受付から査読、プログラム編成までの責任者としてご尽力され、国際化を目指した英語版ホームページの立上げにも貢献された。
	(感謝状) 株式会社日立製作所 中央研究所	㈱日立製作所 中央研究所は、2004年6月及び2013年12月の2回に渡り見学会を受け入れていただいた。2回とも普通では見ることが出来ない基礎的研究や最新技術を体験型の展示室で見学させていただき、また、武蔵野の自然を残した広大な庭園も案内していただいた。講演は、最新の研究内容について参加者に解かりやすくかみ砕いた内容で大好評であった。
	(感謝状) 工学院大学	2013年度学術研究講演会に際し、2007年度に続いての会場提供と会場提供における格別な配慮、そして開催準備及び運営に多大な貢献があり、学術研究講演会を成功に導いた。ご協力いただいた多くの教職員は役割分担が明確でシステム化され、約20名の同大学学生スタッフと共にスムーズな運営に寄与された。
	(感謝状) ホンダエンジニアリング株式会社、 株式会社ピーエスジー	関東支部社会活動の主な活動となっている小学生対象の「くるま未来体験教室」に、2009年度より燃料電池自動車を提供され、「くるま未来体験教室」に対する多大な貢献と支援をされた。車両の提供回数は、東北地区支援のためのミニキッズエンジニアでの試乗会も含め、21回にもおよび社会活動の発展に大きく貢献した。
	(感謝状) 宇都宮大学工学部付属 ものづくり創成工学センター	関東支部社会活動の拠点活動強化の取り組みに対し、宇都宮大学および宇都宮地区コミュニティセンターでの「くるま未来体験教室」開催など 長年にわたり多大な協力をいただいた。2009年度から「くるま未来体験教室」および講演会を合計10回開催され、栃木地区での支部活動のPRや小学生への理科教育などに大きく貢献された。
	(感謝状) ホンダエンジニアリング株式会社	会員増強活動で、170名から270名まで、100名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
	(感謝状) 株式会社ピーエスジー	会員増強活動で、9名から202名まで、193名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
2012	篠原 彰	2010、2011年の自動車技術会関東支部の支部長を務め、その間、会員サービスの向上、支部活動の活性化に努め、特に学生の国際交流の基盤を整えた功績は大なるものがある。
	林田 正文	2001年から12年の長きに渡り講演講習会担当理事として企画遂行を精力的に行い当事業の推進に多大な貢献をした。また時宜にかなった講演テーマを取り上げ、適任となる講師を交渉により依頼し、多数の参加者が満足する結果を得た。また多くの講演会において司会役としても講演会成功のための労を惜しまなかった。
	米山 洋一	2007年度から見学会担当理事を務め、数多くの見学会を企画し、会員に研鑽の機会を提供した。また、“東北地区での視察会”の実施に向け、2012年から東北支部の事業活動と連携して企画し、2013年5月に“東日本震災による津波被害から復興した企業及び津波被災地の視察会”を実施し、関東支部のみならず、東北支部の活動にも大きく貢献した。
	小島 克己	2000年度から2003年度までテクニカルフォーラム担当理事を、2004年度から2009年度まで社会活動担当理事と、10年の長きに渡り関東支部の事業運営に携わった。この間、テクニカルフォーラムや講演講習会会場として、幾度も自動車部品会館を提供され、開催準備にご尽力された。社会活動では、小学生対象の「くるま未来体験教室」、特に山梨県での開催に向けて企画段階から活躍され、同県での初開催を実現させるなど、中心となって活躍された。
	関根 太郎	1998年度から2009年度まで学生活動担当理事を、2010年度から2011年度まで支部報担当理事を、そして2012年度からは試走会WG担当理事と、14年の長きに渡り、関東支部の事業運営に携わってきた。とくに、学生活動においては、2003年度と2011年度に学術研究講演会の会場提供と運営に大きく貢献された。学自研活動にも積極的に支援され、安全運転中央研修所における二輪・四輪の体験型研修は今や恒例の学自研行事になっている。
	株式会社大嶋電機製作所	2009年6月及び2012年2月の2回に渡り見学会を受け入れていただいた。見学会においては、ランプ成形型内完成システム、成形型内成膜システムという世界初の革新的製造工法の工程、設備を間近で見学させていただいた。また、大嶋電機製作所のものづくりの仕組みやご自身のエンジニアとしての経験について講演をしていただき、見学会のテーマ“日本の底力”にふさわしい内容となり、参加者に大変好評だった。
	慶応義塾大学 理工学部	2010年度学術研究講演会に際し、会場提供、開催準備及び運営に多大な貢献があり、学術研究講演会を成功に導いた。特別講演会講師の交渉、約20名の学生スタッフの手配など同大学の総力を上げて対応戴いた。また、第1回国際交流タイ学生受入れ事業に対し、積極的な学生間の交流機会の提供、宿舎の提供などの支援をいただいた。
	明治大学 理工学研究科 機械工学専攻	2012年度学術研究講演会に際し、会場提供、開催準備及び運営に多大な貢献があり、学術研究講演会を成功に導いた。ご協力いただいた多くの職員は役割分担が明確でシステム化され、約20名の同大学学生スタッフと共にスムーズな運営に寄与された。
	株式会社ケーヒン	2012年度の会員増強活動で、年度初66名(2012年4月1日時点)から133名(2013年4月1日時点)まで、67名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
2011	曾根原 努	長年にわたり、講演講習会担当理事として魅力ある講演会を企画し、講演協力会社との綿密な打合せを重ねて参加者の大きな満足を得た講演会を多数実現した。
	西山 一郎	2006年度から見学会担当理事を務め、数多くの見学会を企画して、会員に研鑽の機会を提供した。また、2011年度には支部会員アンケートから抽出した課題にリーダーとして取り組み、「見学会年間予定の早期公表」を果たした。
	岩崎 雅彦	社会活動副担当理事として、社会活動のありたい姿を描き、中期活動計画を率先して策定し、学生生徒の教育支援、関東支部活動拠点の構築や公益法人としての社会活動の普及等に尽力された。この事業の柱である「くるま未来体験教室」では、講師として事業運営の中心となって活躍され、こどもの理科離れ解消や自動車技術会の認知度向上に貢献している。

	時田 貴史	学生担当理事として、学生活動を献身的に支援されてきた。特に、関東支部主催の「学術研究講演会」は、所属企業の技術者の講演・技術展示の調整や座長・審査員の推薦を継続的に行っていたことによる活性化及び表彰制度の確立に尽力され、講演会の知名度が飛躍的に上がり、講演者数及び参加者が毎年増加し続ける原動力となっている。
	宇田 和史	関東支部がものづくり活動を始めた初期段階からこの活動に賛同し、その推進・拡大に積極的に奔走し活動チームの地盤作りに多大な貢献をした。この貢献が同活動の現在の基礎を築き上げたと言っても過言ではない。2002年からは関東支部試走会の主要スタッフとして参加し、安全確保・運営面で力量を発揮し、長きにわたり試走会企画立案・運営に多大な功績がある。一方で、支部学術講演会審査委員、学自研参与を務めるなど、支部運営・支部活動への協力は絶大である。
	(感謝状) 株式会社小野測器 取締役社長 小野 雅道	2009年より関東支部主催講演会、支部理事会、支部グループ担当者連絡会の会場提供及び、2010年からは学生の国際交流事業における見学受入れを積極的にを行い、支部活動に大きく貢献された。(講演会のべ11回、理事会他2回)
	(感謝状) 山梨日立建機株式会社 両宮 清	2011年6月に見学会を受け入れていただき、地雷除去機製造現場の見学と、地雷除去機を通じた国際貢献に関する講演をしていただいたが、その内容は、2011年度見学会テーマである「貢献」に最もふさわしいものであり、参加者の満足度は4.40(5点満点)と過去最高であった。特に両宮社長の講演は、エンジニアとしての志の持ち方や人として生きるヒントを与えていただく感動的な内容であった。
	(感謝状) (独)交通安全環境研究所 環境研究領域	交通研は約3年ごとに講演会を提供し、所内見学とあわせて参加者の満足度を毎回得ている。関東支部の活動への深い理解を示されている。
	(感謝状) 日立オートモティブシステムズ株式会社	2011年度の会員増強活動で、年度初224名から478名(4月1日時点)まで、254名という顕著な会員増にご尽力いただいた。
	(特別感謝状) 寺岡 隆	支部報の表紙写真を、2009年の51号より現在58号まで無償で提供いただいている。テーマを提示すると、それに見合った光景を想定し、休みを利用して日本中のいたるところに撮影に出かけ、候補となる案を複数、支部報の理事会に提供されてきた。昨年末に定年退職されたが、今後も支部報の表紙写真の提供をお願いしていく予定である。
2010	土井 利政	2008、2009年の自動車技術会関東支部の支部長を務め、その間、会員サービスの向上、支部活動の活性化に努め、特に地域活動を中心とした社会活動の基盤を整えた功績は大である。
	関山 恵夫	関東支部主催の学術研究講演会では常に中心的な役割を担い、2008年度の講演会では、学術研究講演会実行委員会委員長として企画から運営に至るまで、斬新なアイデアの提示とそれを実行に移す積極的な取り組みにより、過去最大規模の盛況な講演会を実現した。2009年度も引き続き実行委員長を担い、技術展示会や大学研究施設見学会を併設するなど果敢な取組みを行った。2010年度からは、支部長会社として支部活動を支え、総務主担当理事として活性化に向けて大いに活躍している。
	谷 光志	2004年度から7年間に渡って見学会担当理事を務め、主に電気・電子業界の見学先を数多く発掘した。また、2005年度に谷氏が考案した「見学会アンケートのまとめ」様式は貴重なデータベースとなり、見学会事業の改善活動に欠かせないものとなっている。更に、2010年度から副担当理事に就任し、担当理事会の運営にも尽力した。以上の通り、関東支部の事業活動に大きく貢献した。
	両角 卓郎	社会活動主担当理事として、率先して、「社会活動事業」の活性化に努め、(1)「くるま未来体験教室」事業の普及発展、(2)関東支部活動拠点の構築、(3)公益法人としての「(社)自動車技術会関東支部」社会活動の普及等に尽力した。殊に、「(2)」においては、従来の「新潟」地区に加えて、「群馬」、「栃木」、「長野」、「山梨」地区に事業の礎を築いた事は、将来の発展に際しては大きな功績である。その真摯な活動姿勢は、将来に亘っても、関東支部への大きな貢献が期待される。
	矢澤 滋夫	2004年から社会活動担当理事として、7年間の長きに渡り活動された。特に、担当理事会の活動に対する提案やくるま未来体験教室のスタッフとしての活動など、支部理事として活躍された。燃料電池車のくるま未来体験教室の企画を行い、また、最近では両角主担当理事を補佐し、担当理事会をまとめ、社会活動を根付かせた功績は大きく、表彰に値する。
	(感謝状) ボッシュ株式会社 取締役社長 織田秀明	ボッシュ(株)東松山工場は、ほぼ5年ごとに見学会を受け入れており、ディーゼル燃料噴射装置の製造現場の見学、時代に即した最新の技術動向の講演により、参加者の満足度も大変高いものであった。また、毎回70~100名という乗用車メーカーの見学会に匹敵する人数を受け入れている。以上の通り、関東支部活動への格別の理解と協力により見学会事業活動に大きく貢献した。
	(特別感謝状) 天野 雅継	2011年3月11日、国際交流事業の一環として、タイ学生と学自研の産業技術総合研究所への合同見学会が実施された。見学会の最中に東日本大震災に見舞われたが、適切な避難誘導、避難宿舎の手配を始めとする献身的なサポートのおかげでことなきを得た。殊にタイの学生へのケアに関しては、タイ学生の先生からも感謝されている。このことは、単に人道的な行為であったに留まらず、関東支部が国際化の取り組みを進める中でTSAEの高い信頼を得ることにもつながっている。
2009	山崎 章	2004年より6年間の長きにわたり支部監事として、支部の運営に尽力された。本部、支部会計の一本化に伴う支部側管理の合理化、単年度での収支均衡予算での事業推進等、支部の裏方でのサポートを実施してきた功績は大なるものがある。
	高山 英樹	2004年度より6年間の長きに渡って見学会担当理事を務め、2009年度からは副担当理事の重責を担った。その間、多くの見学会を企画し、見学会事業の発展に貢献された功績は大である。2007年度には上田市での担当理事会開催を立案し、担当理事会の活性化にも貢献された。
	山本 仙三	支部報担当理事として、支部報の改革に尽力された。最近では読者に親しみやすい記事にするため、インタビュー記事の掲載を開始したが、自ら率先してインタビュー先の提案をされ、取材をリードしていただいたことが多々あった。理事会、担当理事会にも積極的に参加され、その行動には理事として範となるべきものがある。
	本田 康裕	2009年3月の学術研究講演会では、国士館大学を会場とし候補者による献身的な支援により、講演数95件と過去最大規模の大会を成功裏に終えることができた。特別講演会講師選定も2年連続で担当戴いた。なお、2005年3月に開催の学術研究講演会も国士館大学を会場とし、学生活動担当理事の経験を活かして全面的にご協力を願った。支部報活動では執筆者の推薦や座談会の企画に尽力され、質の高い「高翔」の製作に寄与され、試走会運営では少ないスタッフでの運営に尽力されている。このように、多岐に渡る支部活動への貢献は、十分に表彰に値する。

	原 誠之助	2004年6月より関東支部の支部報担当理事(2004年6月～2006年5月)及び社会活動担当理事(2006年6月～2009年8月)として活躍された。支部報活動では、42号～46号の編集に携わり、45号では編集主担当を務め、特集テーマを「翔、飛、跳」として人力飛行機やトビウオの話など興味深い支部報出版に貢献した。また、社会活動では、小学生などを対象にした「くるま未来体験教室」の企画運営に積極的に参画し貢献した。特に山梨県での同教室開催に向けては企画段階から参加され、同県での初開催を実現させるなど、本支部の社会活動の中心となって活躍された。
	全日本空輸株式会社 整備本部	2003年度に次いで、2回目の見学会(2009年9月16日)を受け入れていただいた。また、2009年度の見学会テーマ(コスト革新)を考慮して「航空機機体整備におけるコスト削減について」の講演を特別に準備していただき、参加者の満足度は極めて高いものであった。このように、繰り返し受け入れていただいたことと、質の高い見学及び講演を提供していただいたことにより、関東支部の見学会事業活動に大きく貢献された。
	(特別感謝状) 小野田 司	自動車技術会関東支部事務局として全ての事業に積極的に関与、サポートされた。会員増強策や規定類の整備等に極めて独創的なアイデアで精力的な活動を行う他、各担当理事会の運営を効率的にかつ活性化するための種々工夫と努力を積み重ねられてきた。
2008	竹内 覚	2006、2007年の自動車技術会関東支部 支部長を務め、その間、会員サービスの向上、支部活動の活性化、特に地域活動を中心とした社会活動の基盤整備にご尽力された。日産ディーゼル社長となられた後も理事会はもとより主要な行事には出席いただき支部発展に貢献された。
	小林 孝	2002年から現在に至る永きに亘り自動車技術会関東支部の見学会担当理事を務め、その間、多数の見学会を企画・実施し、本会会員に研鑽の場を提供してきた功績は大なるものがある。また、2007年には、担当理事会の外部開催を企画し、担当理事会の活性化に大いに貢献された。
	白井 義保	2001年から現在に至る永きに亘り自動車技術会関東支部の見学会担当理事を務め、その間、多数の見学会を企画・実施し、本会会員に研鑽の場を提供してきた功績は大なるものがある。特に、次年度見学先の発掘及び先方との交渉を前倒しで行って、次年度事業計画立案の円滑化に貢献された。
	中山 清文	2006年に社会活動担当理事としてご就任以来、精力的且つ率先して活動され、社会活動事業の活性化にご尽力された。特に「くるま未来体験教室」や地元群馬地域でのイベントには並々ならぬ活躍をされた。
	三原 雄司	2000年から現在に至る永きに亘り学生活動担当理事として多大な貢献をされた。とりわけ、関東支部学術研究講演会において所属大学を会場として提供するのみならず、講演会の企画・運営を主体的に行ってこられた。 さらに、学生自動車研究会の学生企画にも積極的に関与し、学生委員を指導・サポートされた。
	東日本資源 リサイクル株式会社	2006年度及び2007年度と連続して見学会の受入を受諾していただき、関東支部見学会活動の拡大に寄与された。また、見学内容においては、自動車のリサイクル工程のみならず、製鉄所のコークス炉を活用した先進的プラスチックリサイクル工程の見学をセットしていただき、本会会員の知識向上に大い
	新潟工業短期大学	東京から最遠隔地域である“新潟地区”で、13年間にわたり毎年、講演会、公開講座を開催し地域活動拠点校としてご尽力いただいた。 その結果、年々歳々、当該地域での事業活性化が図られ、2008年12月には、約60年の関東支部の歴史始まって以来、初めて、関東支部理事会が開催できた。
日産自動車株式会社 総合研究所 ・実験試作部 第二研究実験課 ・燃料電池研究室 株式会社日産テクノ	関東支部社会活動として2006年度から実施している「くるま未来体験教室」において、燃料電池自動車の無償提供及び搬送、当日の車両ドライバーや説明員等、ボランティアで多大なる協力をいただいた。 2006年度からの開催は12回、参加児童は累計999名となり、この活動をとおりて関東支部のPRに大きく貢献された。	
2007	雑賀 高	2008年度の会員増強活動で、前年度末27名から174名まで147名の会員増にご尽力いただいた。 2002年度から6年に渡り学生活動担当理事を歴任し、2006年度からは主担当理事を担っている。この間、学術研究講演会の効率的な運営のために対応WGを発足(2006年度から)させ、企業からの講演参加(2006年度から)等、本講演会を成功に導いた功績は大である。 また、OP会発足(2006年度)、OP会と学生活動担当理事会連携による学生委員会支援、関東支部学自研表彰制度の確立(2007年度)など、学自研活動の活性化にも貢献している。
	斉藤 敬三	02年から学生活動担当理事、06年からは講演・講習会担当理事を歴任され、支部活動にご尽力された。 特に講演会の企画実施に当っては、広い人的ネットワークを駆使しテーマ選定から講師探しまで全般主担当理事に就任以来、社会活動事業の有り方について審議し、『小学生対象のものづくり体験授業』等の新規事業を率先して進捗させ、①社会事業活動の基盤の構築、②(社)自動車技術会事業の広告、③自動車技術の普及、等々に多大な貢献をされた。
	久富 正博	2004年から講演・講習会理事、2006年からは主担当理事を歴任され、支部講演会の企画実施にご尽力された。 テーマ選定や講演会実施方法を粘り強く模索し、実行に移してきた功績は顕著なものがある。
	株式会社大成社	関東支部報「高翔」の創刊から現在に至るまで、一貫して製作実務と広告業務を担当され、執筆者と支部報担当理事、支部事務局と連携をとり、支部報の継続的な発行に多大なる貢献をされてきた。表紙のデザインから記事のレイアウトまで、支部報の隅々まで気を配った編集は、読者からも高い評価をいただいている。
	青山 信一	支部事業の記事掲載、関連メディアへの情報提供など支部事業の広報・PRに多大な貢献をされた。とりわけ、日本からFSAE大会へ初参加した合同チームを密着取材し学生フォーミュラにとりくむ学生の真摯な姿および競技の本質を自動車関係者に広く紹介した功績は多大である。
2006	伊藤 宏一	学自研幹事、学自研担当理事として学生活動に多大な貢献をされた。とりわけ2000年5月のFSAE合同チーム遠征の派遣、キットカー全国縦断リレー走行などの企画の中心となった。また、支部理事会や学術講演会、各種講演講習会に会場を提供するなど、支部事業の運営にも多大な貢献をされた。
	川崎 肇	関東支部長として支部事業の運営において多大なる貢献をされた。
	三枝 信雄	支部報担当、学生活動担当および総務担当理事の3つの役割を担い、会の運営に大きな役割を果たされた。特に、支部報担当では読者に真に親しみを持っていただく記事構成とすべく、ご当人の幅広いネットワークを最大限に活用され、テーマや執筆者の開拓にご尽力された。
	田中 文義	多年にわたり支部理事として、支部事業に貢献された。2000年から3年間はテクニカルフォーラム担当理事として支部事業の社会的貢献度の向上に努力され、また2003年から4年間は総務担当理事として、本部会誌編集の経験等も踏まえ幅広いネットワークと卓越した知見に基づき業務を遂行し、関東支部の事業推進に大きく寄与された。
	川瀬 次郎	支部60周年特別功労者
	Tommy Chang	支部60周年特別功労者
	Larry Winkelman	支部60周年特別功労者
	Mark Frye	支部60周年特別功労者
David Young	支部60周年特別功労者	
Subaru Research &	支部60周年特別功労者	

	森 久男	支部60周年特別功労者
	星 清司	支部60周年特別功労者
	中山 紘一	支部60周年特別功労者
	吉川 朋宏	支部60周年特別功労者
	長 正樹	支部60周年特別功労者
	塘 春佳	支部60周年特別功労者
2005	生田 清敏	見学会担当理事として見学会の企画立案を果たし、支部活動に多大な貢献をされた。
	岩浪 英男	見学会担当理事として長年にわたり見学会の企画立案を果たし、支部活動に多大な貢献をされた。
	奈良坂 伸	支部報担当理事として支部会員に有益な情報提供して編集刊行に多大な貢献をされた。
	吉川 寿夫	社会活動担当理事として地域講演会の企画立案を果たし、地域活性化に多大な貢献をされた。
2004	嶋田 幸夫	支部長として支部活性化活動を展開して、会員の増強、各事業共通テーマのもとで多彩な活動を行い目覚ましい成果を上げた。円滑な支部運営が行われ、支部の発展に多大な貢献をされた。
	小林 勝治	見学会担当理事として見学会の充実に尽力され、支部活動に多大の貢献をされ、また、学生フォーミュラ活動では学生のサポートにも注力され、ものづくり教育支援活動に多大な貢献をされた。
	中島 和夫	各担当理事に就任され、会員増、サービス事業のあり方、支部広報、学生活動など支部全体の運営について積極的な提案を行い、支部の活性化に貢献し、過去最大の会員数とし、支部の発展に多大な貢献をされた。
	外崎 節	庶務担当理事を担い関東支部の事務処理が円滑に行い支部の発展に多大な貢献をした。また、支部報担当理事として、内容の進展に努力をされると共に、担当理事会の運営に力を注がれ、支部の発展に多大な貢献をした。
	国士舘大学	事業活動表彰
2003	鈴木 孝幸	豊かな見識と積極的な事業運営により支部の活性化と活動に指導力を発揮され、また学生のもの作り教育を率先推進されるなど支部の発展に貢献された
	加藤 博武	関東支部理事として支部会員に有益な事業を企画立案され、また支部報の編集刊行に多大な貢献を
	加藤 幹夫	関東支部の事業に理解を示され支部学自研活動の実践推進に貢献をされ、また支部の新事業であるフォーミュラSAE活動の推進と普及に尽力された
	秋野 裕	関東支部理事として支部長を補佐し、支部の運営・発展に各般にわたる貢献をされ、また学生のもの作り活動の導入確立などに努め支部のみならず自動車技術会の発展に尽力された。
	神奈川工科大学	事業活動表彰
	日本大学理工学部 機械工学科	事業活動表彰
2002	有馬 光彦	積極的な支部事業運営により支部活性化に指導力を発揮され、また学生のモノ作り教育としてFSAE活動の推進に尽力され、支部の発展と活性化に貢献された
	鎌田 実	豊かな見識と行動力により、支部会員に有益な事業を企画立案され、また社会的活動に指導力を発揮されるなど支部の活性化に貢献された。
	酒井 達雄	米国駐在時アジアから初参加のFSAE大会では、現地での車輛基地の提供、事前準備からエンディングまでの支援など、現地においても支部活動に尽力された。
	西田 俊章	関東支部理事として支部の活性化と発展に尽力され、また支部見学会の主担当理事として支部会員に有益な事業を積極的に企画立案された。
	山田 正世司	担当理事として参加しやすく興味を持てる講演講習会を企画され、また学生のモノ作り教育支援活動であるFSAE活動の推進と普及に尽力された。
2001	狩野 芳郎	関東支部の学生活動担当理事として、学自研活動の活性化とフォーミュラ活動の推進と普及に尽力された功績。
	吉田 泰	講演・講習会の主担当理事として積極的に会員に有益な事業を企画立案し、また支部の運営・活性化に多大な貢献をされ支部の発展に尽くされた功績。
	浅岡 重輝	永年にわたり支部報編集担当理事として卓越した編集・企画を行い、会員に喜ばれる紙面にするとともに、学自研活動に多大の貢献をされた功績。
	大谷 忠彦	永年にわたり理事・監事として支部活動に貢献され、支部の活性化と発展に多大な貢献をされた功
	森村 晃一	永年にわたり学自研の事業活動に多大な支援・援助を行い、学自研活動の発展に多大な貢献をされた功績。
2000	若林 克彦	永年にわたり学自研活動主担当理事として、学自研活動の積極的な事業運営と強力な指導力を発揮し、支部学自研活動の活性化に多大な貢献をされた。また、ものづくり教育の支援を目的としたFSAE活動を積極的に推進した功績
	雀部 宣征	永年にわたり関東支部の講演・講習会担当理事として、担当理事会の運営と会員に有益な事業立案と実施に努力され、支部の活性化と発展に尽くされた功績。
	日本大学	事業活動表彰
	上智大学	事業活動表彰
	都立航空高専	事業活動表彰
	国士舘大	事業活動表彰
	神奈川工大	事業活動表彰
	日産スポーツプラザ	事業活動表彰
1999	逸見 邦夫	永年にわたり関東支部の講習会担当理事として、会員に有益な事業を企画立案し支部の発展に尽くされた功績、および支部事務局を積極的にサポートし、事務運営に寄与された功績。
	古谷 国貴	長年に亘り、関東支部報の編集理事として、編集企画や企画のための情報収集は勿論のこと、地域活動主担当理事として地域活性化のためビデオライブラリーの設置、及び支部のホームページの開設に多大な貢献をされた。
	景山 一郎	長年に亘り、学自研理事として、学生自動車研究会の土台を築く上での功績、および学自研活動の積極的な事業運営と強力な指導力を発揮し、支部学自研活動の活性化に多大な貢献をされた。
1998	高村 昭生	支部活動の講習会において主担当幹事として担当幹事会の運営と講習会実施に寄与した。当時新設されて日の浅い講習会の主担当者として講習会の立案と実施に努力をばらい、現在の講習会運営モデルを確立した。講習会実施に当たり、参加人数減少傾向と講習会実施場所選定に困難な時期にも講習会設立主旨の基礎技術習得の一環であるエンジン性能計測講習を毎年継続して、自社の職場を提供して実施し、参加者の共感を得た
	江藤 俊夫	長きに亘り、関東支部報の編集理事として、編集企画や企画のための情報収集は勿論のこと、会議開催のための会場設定等、多面的に大変情熱的且つ精力的に貢献いただいた
	星野 正憲	長年に亘り講演会理事として、行事の計画・立案・運営に対し積極的に推進され、支部長代行として、支部行事の企画・運営にあたるなど、その功績は大なるものがある。更に、現在は監事の重責を担っており、支部の発展に多大に寄与されている。
1997	村岡 良三	支部理事として多年にわたり支部会員に有益な事業を企画立案し、支部発展に多大な貢献をされた
	山本 洵	永年にわたり支部の理事・監事として支部活動に貢献し、支部の活性化と発展に多大な貢献をされた
	石川 康雄	永年にわたり支部長として支部活動に強力な指導力を発揮し、積極的な事業運営により支部の発展に多大な貢献をされた功績。

1996	田沼 武	永年にわたり支部長・講演会理事として支部活動に強力な指導力を発揮し、支部の発展に多大な貢献をされた功績。
	河原 寛	永年にわたり支部の理事・監事として支部活動に貢献し、支部の活性化と発展に多大な貢献をされた
	家本 潔	創立50周年記念事業活動特別功労者
	堀 康夫	創立50周年記念事業活動特別功労者
	青木 正信	創立50周年記念事業活動特別功労者
	田熊 一徹	創立50周年記念事業活動特別功労者
	荒川 一郎	創立50周年記念事業活動特別功労者
	中澤 達二	創立50周年記念事業活動特別功労者
	岡部 萌生	創立50周年記念事業活動特別功労者
	太田 昇	創立50周年記念事業活動特別功労者
	景山 久	創立50周年記念事業活動特別功労者
	栗原 栄太郎	創立50周年記念事業活動特別功労者
	鈴木 作良	創立50周年記念事業活動特別功労者
田中 次郎	創立50周年記念事業活動特別功労者	
樋口 健治	創立50周年記念事業活動特別功労者	
1995	近森 順	支部報の主担当理事として、斬新かつ卓越した「編集・企画」を実施し、会員に喜ばれる紙面にすると共に、新しい観点での事業の企画・運営を行い支部発展に指導力を発揮された功績。
	津田 紘	永年にわたり学自研の事業活動に多大な支援・援助を行い、また初代講習会事業主担当理事として講習会事業の基盤を確立し、関東支部事業の発展に大きく寄与した功績。
	鳥羽 毅	現在の6支部体制となる以前から関東支部学自研参与として、学自研事業の企画・運営を率先して遂行し、学自研運営の基礎を築くなど、学自研活動の発展に大きく寄与した功績。
1994	鷺山 雅一	永年にわたり支部理事として、支部報編集、学自研活動に於ける積極的な活動で多大な貢献をし、支部の発展に努めた功績。
	景山 克三	永年にわたり自動車に係わる科学技術の進歩発展をはかり、以って学術文化の振興、発展に多大な成果をもたらせた功績、及び顧問として支部の発展に指導力を発揮された功績。
1993	太田 昇	永年にわたり支部長その他の役員を歴任され、支部活動に強力な指導力を発揮され、支部発展の原動力として多大な貢献をされた功績。
	青木 辰夫	永年にわたり支部の監査役として支部長を支え、発展に寄与された功績。
1992	樋口 健治	永年にわたり支部幹事として事業の活性化に尽力され、支部報編集・出版活動への功績。
	牧野 昇	永年にわたり支部活動に細心の支援をつづけられ、1990・1991年度支部幹事の重責に対する功績。
	佐々木 英男	永年にわたり支部幹事として事業の活性化に尽力され、支部報編集・出版・広報活動への功績。
1991	牛田 達雄	支部幹事として多年にわたり支部会員に有益な事業を企画立案され、支部活動の活性化に多大の貢献をされた。
	中村 由之	支部幹事として多年にわたり支部会員に有益な事業を企画立案され、支部活動の活性化に多大の貢献をされた。
1990	福谷 格	
	内山 芳忠	
1989	本望 行雄	
	岡部 萌生	
1988	青木 一雄	
	寺西 孝一郎	